

成田赤十字病院新規指定推薦について（1）

- すでに同一がんの医療圏に拠点病院等が指定されているが、がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針では「当該都道府県におけるがん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の整備がより一層図られることが明確である場合には、指定の検討会の意見を踏まえ、複数整備することも可能とする。」としている。
- 当該医療機関に対する推薦意見は以下の通りである。
 - ①平成15年12月から平成27年3月まで地域がん診療連携拠点病院として、平成27年4月からは千葉県がん診療連携協力病院として地域のがん診療に質向上に大きく貢献している。

成田赤十字病院新規指定推薦について（2）

- ②がん診療としては、希少腫瘍を含め、ほぼ全ての悪性腫瘍に対する手術、がん薬物療法、放射線療法に対応している。造血幹細胞移植の認定施設であり、特に血液腫瘍領域においては、印旛医療圏のみならず県内全域でも随一の治療実績を有している。
- ③同医療圏にある拠点病院や協力病院と協力して研究会や症例検討会等を積極的に開催する等、情報共有や地域連携の強化を図っており、拠点病院に指定されることにより、圏域内にある拠点病院や協力病院と協働してこの連携体制を強固なものにし、広域な圏域内におけるがん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の整備がより一層図られるものと考えられる。

印旛医療圏に複数整備することによる医療機関の役割分担等（1）

- 印旛医療圏は、7市2町で構成され、人口約72万人、面積約700km²となっている。また、拠点病院空白の医療圏である山武長生夷隅と隣接している。
- 日本医科大学千葉北総病院は、各分野の指導・専門医を多く有しており、特に腹腔鏡手術では、日本内視鏡外科学会技術認定医、ロボット手術指導医師を各領域に配置している。さらには、日本肝胆膵外科学会高度技能専門医等、これらの専門的な資格を有する医師により、安全で高度な手術を提供できる体制を整えている。また、人工透析を必要とするがん患者に対応できる。

印旛医療圏に複数整備することによる医療機関の役割分担等（2）

- 成田赤十字病院は、造血幹細胞移植の認定施設であり、特に血液腫瘍領域においては、印旛医療圏のみならず県内全域でも随一の治療実績を有している。また、精神科救急・合併症入院料を算定する精神科病床50床を有しており、統合失調症等の重度精神疾患を合併したがん患者の治療にも対応できる、県内でも数少ない病院の一つである。
- 両病院は、千葉県がん診療連携協力病院である東邦大学医療センター佐倉病院とともに各病院の機能に応じた患者の受入れ等、二次医療圏内の役割分担について話し合う場を設け、病病連携の推進をしている。その一例として、日本医科大学千葉北総病院で治療している患者で統合失調症等の重度の精神疾患を合併したがん患者を成田赤十字病院に紹介して受入れた実績がある。